

(平成 30 年 3 月試験研究業務月報)

試験研究課題：強樹勢台木の接ぎ木による賀茂ナス果実の高品質・高付加価値化技術の確立

研 究

賀茂ナスの台木選定試験を開始

京野菜の賀茂ナスは、土壤病害の半枯病に強い赤ナスを台木として、接ぎ木栽培[※]を行ってきましたが、近年、別の土壤病害が広がり減収しています。

また、台木の赤ナスは、夏期の高温にあまり強くないため、穂木となる果実への水分供給が追いつかず、艶が失われ、品質低下の原因となっています。

そこで、当センターでは、病害に強く、品質が低下しにくい賀茂ナスの栽培を目指して、病害に対する強さや水分吸収特性が異なる 7 種類の台木に賀茂ナスを接ぎ木し、栽培試験を開始しました。

今後、5 月に定植した後、収量や品質を調査し、賀茂ナス栽培に適した台木を選定していきます。

※ 接ぎ木栽培：ナスでは、半枯病、青枯病、半身萎凋病などの土壤伝染性の病害対策として、同病害に強い種類の地上部を切り取った根株部分（台木）に目的とする栽培品種の枝（穂木）を接いだ苗を植えている。



賀茂ナス（穂木）を台木に接ぎ木し（左）、接着した苗を養生（右）